リーディングDXスクール事業 【実践事例】

幸手市立幸手中学校

【取組内容④】継続的かつ対話的・協働的な教員研修の実施

概要

生徒にICTを利活用していく上での当事者意識と情報活用能力を身に付けさせるというゴールを設定し、「継続的な伴走支援」を意識した、有識者（DX推進コーディネーター、大学教授等）による教員研修を実施。

ねらい

デジタル社会で生きていく生徒達の、当事者意識と情報活用能力を育成すべく、教員の資質・向上を図っていく必要がある。

この達成するために、DX推進コーディネーターや大学教授等から、いわゆる年度一回単発の研修ではなく、「継続的な伴走支援」を意識した教員研修を実施していただくことをねらいとする。

Before ▶ After

移動の問題等から、
教員研修を設定しても
単発での実施
研究が深まりにくい

年間数回の研修を設定

継続的な伴走支援を実現

成果

本校教員と有識者等の間で同じ絵を描いた上で、研修を企画・実施することができた。

研修が継続的であるため、前回学んだことをもとに教育実践に移し、その結果も指導者がフィードバックしてくれるため、研修の深まりを感じた。現在、教員から自発的な実践が生み出されてきている。

課題・展望

「苦手」「できない」と感じている教員の心に火を灯していきたい。

「校務のDX化」「自由進度学習」等にチャレンジしたいという教員からの声もある。市教委主催の年間指導計画相談会も利用しつつ、Teamsを活用した「緩やかな学びの場」を大切にしていきたい。次年度のリーディングDXスクール事業にも手を挙げ、更なる研究を進めていきたい。

Point!

市教委委員会も交えたオンラインミーティングの機会を定期的に設定することで、研究の方向性を常に確認